

特別支援教育に係る高校生グループディスカッション

令和6年8月7日(水) 15:30～16:30

～参加者プロフィール～

A君

- ・諏訪小なかよしに1年生～5年生まで通う
- ・6年から通常級、中学はこぶしを通級利用
- ・現在、専門学校に在籍

Cさん

- ・南鶴牧小わかばに1年生～6年生まで通う
- ・現在、全日制高校に在籍

B君

- ・聖ヶ丘小つばさに2年生～6年生まで通う
- ・ゆうかり教室（適応教室）も利用
- ・現在、通信制高校に在籍



1.小中学校で受けた特別支援（どんなところでどう過ごしてた？）

A君

なかよし（小学校）

多くて8人 朝から帰りの時間まで教室内にいた

ボードゲームをやったり、将棋は楽しかった

畑で大根やひまわりを育てたりした

パーティションで仕切って個別で勉強した

こぶし（中学校）

決められた曜日に、朝から最後までいるときも

裁縫、制作、スキー合宿の時の履き方を教えてもらったり（学校でやることをこぶしで教えてもらう）

自由時間は、やりたいことを聞かれ、やる（グループだったり、個人だったり）

B君

つばさ（小学校）

多くて10人弱、普段は3~4人

将棋、チェス、けん玉、ボードゲーム、カードゲーム、バランスボール

人生ゲームや将棋は楽しかった

一人でやったり、先生とやった

Cさん

わかば（小学校）

グループ活動かがやき、他に個別活動もあった

事例をあげ、どう行動すべきかといった道徳的なこともやった

給食はみんなで、授業は学年ごとに

学年が上がるごとに行く回数は減る

低学年の時は、字を書く練習など

手先を使うゲームやワーク

中学1年～高校2年までふたば学級（南鶴牧小）のお手伝いをしていた

2.特別支援を受けていた時の気持ち

A君

同級生に何をやっているか聞かれることはあった

勉強してないんだろと言われることもあったが、自分にとっては必要なことと思っていた

親に言われ通い始めたので、疑問に思うことはなかった

人に言われても関係ない、周りにもっと知ってほしい

B君

授業をさぼれる最高の場所だった

通知表を見返しみて、先生がしっかり書いてくれていたことを知った

遊んでんだろと言われても、遊んでるよと答えていた

Cさん

通うのが当たり前だったから、嫌ではなかったが、通ってない子に遊んでるんでしょと言われ、思うところはあった
自分は遊んでいるつもりはないので、通ってない子に体験してほしい

3.高校生の今の自分にどんな風に役立っていますか？

A君

自分の意見を尊重してくれた、将来の夢や目標ができた
特別支援がなかったら、社会で浮いた存在になっていたと思う
自分との折り合いを付けられたから、人間関係で大きな問題を起こすこともなかった
自分はどんな人間なんだろうと考えたり、自分が何かを学んだ

B君

その時は感じなかったが、先生たちが自分のためにやってくれていたんだと後で気付いた
自分の基礎を作れた、自分を調整できた、根っこの部分できた
人と関わるのが好き

Cさん

自分の苦手なこととどう向き合っていくか、
上手くいかないときにどうするか→上手くいかないときに気持ちの切り替えができるようになった
グループ活動や運動が苦手だったが、今ではオリンピックを観ることも楽しくなった
中学の時はマイナスばかり見ていたが、良いところも見てくれた

4.どんな特別支援教育だったらいいなと思いますか？

A君

全ての学校に特別支援学級がほしかった
馴染めた人、馴染めなかった人がいた
中学校でも同じようにやってほしかった
こぶしがあったから良かった、心の拠り所だった

B君

中学校には不満があった
1.椅子に座っての勉強は嫌だった
百人一首は人気があったので、同じようなメリハリをつけた（動きがある）授業をしてほしい
2.全校集会はいらない

Cさん

特別支援教室を分かっていない人が多い
孤立している感じがする、外から見ると何をやっているか分からない
どんなことをやっているか知るきっかけがあるといい、交流会や先生たちからお知らせなど

最後に、中学生に言ってあげたいことがあれば一言

- ・ 小学校から中学校にあがると焦っちゃうかもしれないけど、焦らずマイペースで大丈夫
- ・ 近くの大人に頼ってすごく良かったから、早いうちから頼った方がいいよ
- ・ 周りと比較して自分が浮いていると思わなくていいよ
- ・ 文句を言いたい奴には言わせておけ
- ・ 友人関係は難しいけど誰かと仲良くなれるから、仲良くなった人に思いやりをもって
そんな友だちを大切に